

令和4年度 校長だより 第7号

1 実りの秋

令和4年度も半分が終わり、「後期」に入りました。新型コロナウイルス感染症の影響が続いており、未だ先が見通せない状況にあります。皆で、感染しない・させない対策を徹底し、安心安全な学校生活を続けていきましょう。

『実りの秋』、これまで積み上げてきた努力の成果が徐々にあらわれてくる頃です。いきなり大きなことを成し遂げようと意気込まずとも、まずはすぐ実行できる小さなことから始めて、コツコツと積み上げていきましょう。

何度も繰り返しますが、まさに『微差は、大差』です。



2 「言葉にすると行動が変わる」

最近読んだ本に書かれていた内容の一部を、今回と次回の2回に分けて紹介したいと思います。

今、目標をもとと簡単にいいましたが、そこですごく時間がかかる場合も実際にはあります。そういうときは、自分が何がしたいのかということをしてできるだけ自分のなかで整理して、言語化するんですね。言葉にしてみないとダメです。前にいったように図に書いてもいいし、もちろん口に出してもいい。そうすることで初めて方向が決まります。それに向けての作戦とか段取りとか具体的な行動が始まるんですね。そうしない限り、おそらくアタマはよくなりません。いったん目標の設定さえできれば、「そのためにはどうしようか」って考えるようになるんです。そうすると、この本を読んでみようとか、この参考書にトライしてみようとか、先生にもっと質問してみようとか、さまざまな行動パターンの変化があらわれます。自分に行動の変化を起こすこと、これがきわめて大切です。アタマのなかで漠然と考えていても限界があるんです。フェアにいうと、じつはここで挫折する人も多いのです。行動パターンは変わったのだけど、いろいろやってみても、それでも「やっぱりダメだ」と。その時点で目標を取り下げてしまうんですね。でも、ここが踏ん張りどころです。目標を取り下げてしまったら、その瞬間、そちらには絶対行けなくなりますよ。それはまちがいありません。周囲のいろんな人をみていてつくづく思うんですが、成功している人はやっぱり根気があるんです。諦めない。諦めた瞬間にもうそれは達成できなくなるからです。2年かかろうが3年かかろうが、とにかく諦めずに目標を自分のなかで確立しておく。ブレない。それに向けて少しずつ少しずつ進んでいく。

(竹内薫著『自分はバカかもしれないと思ったときに読む本』から)

3 科学技術高生の評価高し

3年生の就職試験の結果が続々と届いています。科学技術高校で「本物のチカラ」をつけてきた皆さんを、企業の採用担当者の方々が大変高く評価してくださっているという報告を聞き、大変嬉しく誇りに感じています。

また、進学を目指している皆さん、今が踏ん張りどころです。次回の校長だよりで、「努力と成果の関係」について紹介させていただこうと思います。

自分の可能性を信じて、『未見の我』を見つけにいきましょう。